

鹿児島県知的障害者施設家族会連合会会報

かごっま家族ねっと

創刊号

発行日 平成24年12月

鹿児島県知的障害者施設家族会

連合会事務局

〒892-0871

鹿児島市吉野町 10793-1

「きずな学園」内

Tel 099-244-3220 Fax 099-244-3227

家族会連合会の会報「かごっま家族ねっと」の発刊にあたって

鹿児島県知的障害者施設家族会連合会会長 藤井 厚子

師走を迎え寒さが身にしみる頃となりましたが、鹿児島県知的障害者施設家族会連合会に参加していただいております皆様方におかれましては、お元気で毎日をお過ごしのこととお慶び申し上げます。

会員の皆様のご支援・ご協力で施設家族会連合会活動も軌道に乗り、様々な活動を実施することができるようになり感謝申し上げます。

特に、さる5月10日、11日の両日にわたって第6回全施連九州協議会鹿児島大会を鹿児島市で開催しましたところ、皆様のご協力で多くの成果を得ることができ、九州各県の参加の方々より感謝の言葉をいただきました。

また、11月6日・7日に開催されました「全施連全国大会 in 大分」大会には九州ブロックの一員として、大会の充実に寄与しようとの観点から皆様に参加のお願いを申しあげましたところ、県下各地の施設家族会より32名の参加を頂きました。多忙な折のご参加ありがとうございました。

大会の詳細につきましては、下記の大会報告をご覧ください。ご協力ありがとうございました。

さて、今回、私たちの『鹿児島県知的障害者施設家族会連合会』の活動の様子を多くの方々にご理解いただき、更なるご支援をいただきたいとの所存から会報を発行することにいたしました。年に2回の発行で、全国段階の活動の様子や県独自の取り組みの様子をお知らせしたいと計画いたしております。慣れない活動ですので行き届かない点多々あるかと存じますが、多方面からのご意見をいただきますようお願いいたします。



全施連九州協議会を鹿児島で開催

二つの講演で全施連の存在意義を再確認

平成24年5月10日(木)・11日(金)の両日開催された「全施連九州協議会鹿児島大会」において、参加者は二つの講演を聴くことができました。講演をしていただきましたお二人の先生には、講演に伴う事前の資料の作成・準備等で多くの時間を費やされたことが推察でき頭の下がる想いがしました。

いただいた二つの資料は、大変貴重なもので機会があるごとに読み返し、今後の私たちの活動の基盤として活用していきたいものです。

ここでは、お二人の講演の一部を印象に残った事として紹介しておきますが、端折っているため真意が伝わらないことが多々ありますので、是非当日の資料の全てをご覧ください。(新たに必要であれば事務局にお知らせください。)

鹿児島大学法科大学院教授伊藤周平先生は、『障害者総合支援法と障害者福祉のゆくえ』の演題のもと、昨今の知的障害者を取り巻く状況について講演をしていただきました。

東日本大震災と社会保障・税の一体改革、障害者自立支援法をめぐる動向等についての分析を踏まえて、改正障害者自立支援法（つなぎ法案）の内容と課題や問題点として3項目に亘って解説していただきました。

更に、事実上の障害者自立支援法の恒久化を狙う『障害者総合支援法』の内容と問題点についても説明が有り、財源の逼迫を理由に「障害者福祉の介護保険化」に再び舵をきるのではないかとの懸念も指摘されました。

これからの障害者運動は、当事者や研究者が連携をとりつつ、高齢者や保育に関する運動をも包含しながら進めるべきだとの今後の見通しも話していただきました。

私たちの近くの大学で研究をすすめておられる先生ですので、また機会を得てお話を伺いたいと思うことでした。

全国知的障害者施設家族会連合会（略称・全施連）副理事長南守先生は、『親なきあとの準備～あなたが亡くなる前、あなたは何をしていますか？何をしてきましたか？』の演題のもと知的障害者施設家族会連合会の活動のあり方について解説していただきました。

全施連の今までの活動は有意義であり、知的障害者の抱える課題について政治家や行政に一定の理解をさせることができたことに自信をもち、これからも知的障害者の特性を正確に捉え直視することの大切さを訴えられました。

「親なきあととは？」では、親の死後、我が子がどうなるかを心配する事でなく、親の死の前に「ああこれで安心」と思えるようにすることだと指摘され、全施連としての活動の重点を分かりやすく説明していただきました。

入所施設の問題は、「安上がりの福祉を提供しようとする政策側の要請と、自らの命と暮らしを守ろうとする国民側・知的障害者家族とのぶつかり合いの場である。」とのご指摘でした。このことを肝に銘じ、今後の活動に邁進しなければとの声に参加者から出されました。

今後の課題について意見交換 平成24年度研修会開催

平成24年11月16日（金）の午後、鹿児島市のハートピアかごしまの多目的ホールにおいて鹿児島県知的障害者施設家族会連合会（略称・鹿知施連）の平成24年度研修会が開催されました。

今回は、鹿知施連の意義や活動について再確認する場にしたいとの目的から、外部講師を招聘するのではなく会員のみで課題等を検討する手作りの研修会を開催しました。

主たる目的は、上部組織の全施連の活動方針を相互理解し、今まで鹿知施連の歩みを振り返り、これからの課題は何か意見交換をすることで、会員の意識向上と会員相互の情報交換を図ることでした。

「全施連大分大会の概要」、「鹿知施連発足時のいきさつ」の二つの基調報告の後、質問・意見交換に進みました。

当日出された意見は下記のようなものでした。

- ・「今なぜ入所施設の新設」を活動の中心にするのか。
- ・「施設解体論」とはどのようなことを指すのか。
- ・全施連や鹿知施連の現状や活動の様子を会員に知らせて欲しい。



- ・鹿知施連の活動は施設経営者から信頼を得る活動であるべきだ。
- ・鹿知施連の目的達成のためには行政や議会への陳情活動が必要ではないか。
- ・成年後見制度に関してのNPO活動についてもっと知りたい。
- ・全施連や鹿知施連の大会や研修会に参加依頼をするが参加者が少ない。

質問や意見に対してその場で応えられるもの、すぐに結論を出せられないもの等当初予想していた以上に多くの質問・意見が出され、相互理解が深まったのではないかとの思いがする研修会になりました。

出された意見が今後の運営に生かされたら、さらに充実した組織になるのではとの思いが漂う中で閉会になりました。県内各地の39施設から参加していただきありがとうございました。

全施連全国大会 i n 大分大会に

鹿児島県知的障害者施設家族会連合会から32名参加

平成24年11月6日(火)7日(水)の両日、大分市で「第8回一般社団法人全国知的障害者施設家族会連合会全国大会 i n 大分」大会が開催されました。

全国から503名の参加があり、知的障害者と家族について多岐にわたる意見の交換があり、多くのことを学ぶことのできた2日間だったとの感想が聞かれました。

鹿児島県からは、九州ブロックで行われる大会ということで、県下の各施設から32名の参加希望がありバス1台を借り上げての参加でした。

大会テーマに『みんなで拓こう！わが子らが安心して暮らせる未来を 今何を、これから何をなすべきか、家族会』が掲げてありました。

主として、取り上げられたのは次の2つの事項でした。

- これからどのような施設を創造していくのか「新しい生活施設について全施連からの提言」
- 後見が保護者から兄弟姉妹に引き継がれることが多くなった現況を踏まえて、親や兄弟姉妹はどのようにあるべきか

いずれの事項も3名のパネリストから問題提起がなされ、それについて会場から意見や質問を絡ませる形式で進行されました。

施設解体論や地域での生活の美名のもとに、施設のあり様が大きく変化してきています。そのような状況下で、全施連としては、『障害者やその家族が、なぜ既存施設の維持や改善でなく、入所施設の新設を求めるのか。求める施設とはどのようなものか。』について提言し、その実現を目指そうとの方針のもとで討論が進められました。

保護者の高齢化や死亡によって、後見が兄弟姉妹に引き継がれている現状のもとで、親は障害者の兄弟姉妹(注・きょうだいと表記されます)に何を託し、きょうだいは障害者や親についてどのように考えているか真剣な意見の交換もありました。きょうだいの視点からの討論は、これまで前例がなく今後の大きな課題であることが顕著になりました。

これらの二つの事項は、鹿児島県においても重要な課題であることから様々な機会を捉えて意見交換が必要であると痛感することでした。

1日目の夜の懇親会では、大分県に伝わる「神楽の舞」も披露され参加者の懇親が深められました。その他、総会報告では全施連の運営を支える苦しい財政状況が報告され、会場での資金カンパもおこなわれていました。情勢報告では、障害者政策委員会の動向や障害者支援法の動向について説明がなされました。



大会のまとめとして、提示された『障害者権利条約で保障されている障害者の人権や、安心して安全な生活が守られる法律上の仕組みの制定を求めて活動する』が大きな拍手で決議されました。

次年度は、北海道大会ということで北海道の代表の方々から参加要請がありました。

「九州地区手をつなぐ育成会鹿児島大会」におけるシンポジウムに

鹿児島県知的障害者施設家族会連合会からも参加

平成24年8月25日（土）に鹿児島市の宝山ホール（鹿児島県文化センター）において、九州地区手をつなぐ育成会連絡協議会主催の「第52回九州地区手をつなぐ育成会鹿児島大会」が開催されました。

『手をつなぐ育成会』と『知的障害者施設家族会連合会』の両組織に、多くの知的障害者の保護者が共に参加していることから、『今、求められる手をつなぐ育成会のあり方』のテーマで実施されたシンポジウムのシンポジストとして主催者から鹿児島県知的障害者施設家族会連合会に出席の要請がありました。

理事会で検討し、知的障害者施設家族会連合会の存在を広く理解してもらい良い機会であると捉え代表が参加することにしました。

大会では、代表が、与えられた20分の時間で、知的障害者施設家族会連合会設立の経緯・活動方針等を述べ、さらに「手をつなぐ育成会」を「知的障害者施設家族会連合会」からどのように観ており、改善して欲しい事項はどのようなものを訴えました。

意見交換・討論の中で、「知的障害者の家族が関わる組織として手をつなぐ育成会があるのになぜ施設家族連合会を立ち上げるのか」との指摘がありました。「知的障害者の幸せを願う全ての課題については、手をつなぐ育成会が全面的に活動していただき、全国知的障害者施設連合会としては、施設の入所・通所に関わる課題を顕在化させて活動しています。」との見解を示しました。



誤解され易い事項であることから、今後も両組織が意思疎通の機会を多くし、協力し合って知的障害者の幸せを目指す活動に邁進する必要性を痛感したとの感想が参加者から多く聞かれました。

【全施連本部からのお願い】

全施連本部では、今後の活動の参考として、親がどのようなことに不安を感じているかを把握したいと希望しております。全国の皆さまから『親の不安はこれだ』を募集しております。どんなことでも結構です。親の本音を教えてください。鹿児島の分をまとめて本部に提出いたしますので事務局に Tel・Fax でお知らせください。

【編集部からのお願い・編修後記】

平成24年11月末 編集部一同

会報「かごつま家族ねっと」の創刊号をお届けいたします。慣れない活動のため読みにくい部分が多々あったかと思いますがお許しください。年2回、6月と12月の発行になり、掲載事項が旧くなる面もありますがご了承ください。特に今回は創刊号のため旧聞に属する事項があったこととお詫びいたします。

2号以降は、全国段階での総会、大会の報告を中心しつつ、各支部の報告・各施設家族会の紹介等も随時掲載していきますので積極的に原稿をお寄せください。

また、編集部から原稿の執筆を依頼しました折は快くお引き受けいただきますようお願いいたします。

向寒の折、体調管理に十分注意され楽しい年末・年始をお過ごしください。